

転居に至る要因の考察

問16 今後の転居意向

| | |
|----------|---------|
| 1 住み続けたい | |
| 2 転居したい | 3 わからない |

| | |
|------------|------------|
| 1 生まれた町だから | 2 通勤・通学のため |
| 3 結婚に際して | 4 その他 |

問11 居住の契機

このうち、問 11-2、問 16-2 の回答をクロス集計 (N=110)。
問 16-2 は選択肢 2 つまでを回答。

■ 集計①

問 11 居住の契機・・・選択肢 2 「通勤・通学のため」

問 16 住み続け意向・・・選択肢 2 「いつか今の場所を転居したい」

上記のうち、問 11-2 「居住した際の評価事項」と、問 16-2 「転居地を決める際の重視事項」の間でクロス集計を行った。

問 11-2 は単数回答、問 16-2 は 2 つまで選択可の設定問である。

■ 結果

問 11-2 居住の際の評価事項

問 16-2 転居時の重視事項

| | 通勤・通学に便利 | 価格が安価 | 手頃な面積 | 利便性 | 住環境 | 暮らしやすい | その他 |
|-------------------------|----------|-------|-------|-----|-----|--------|-----|
| 鉄道駅に近いこと | 11% | 23% | 0% | 17% | 25% | 0% | 0% |
| 自然環境、まちなみが良いこと | 9% | 15% | 0% | 13% | 8% | 14% | 38% |
| 近所づきあいが煩雑ではないこと | 7% | 8% | 0% | 4% | 0% | 0% | 0% |
| 通勤・通学に便利なこと | 7% | 0% | 0% | 21% | 17% | 14% | 0% |
| 日常の買い物をするスーパーや医療施設に近いこと | 20% | 15% | 0% | 8% | 25% | 29% | 25% |
| 親戚が近くに居住していること | 2% | 8% | 0% | 4% | 0% | 14% | 0% |
| 居住予定自治体の福祉が充実していること | 13% | 8% | 0% | 4% | 0% | 29% | 13% |
| 手頃な広さ、価格の住宅があること | 17% | 23% | 0% | 17% | 25% | 0% | 13% |
| その他 | 15% | 0% | 0% | 13% | 0% | 0% | 13% |

居住時に「暮らしやすさ」を評価していた層以外では、転居時に「手頃な広さ」が重視されている。

そのほか、居住時の評価別に、転居時に重視する事項を以下に記した。

- ・居住時に通勤・通学の利便性を評価していた層では、転居時の重視事項として生活利便施設までの近さ、公共福祉の充実が挙げられ、通勤・通学の利便性は重視されなくなる傾向がある。
- ・居住時に価格を重視していた層では、転居時の重視事項として鉄道駅に近いことが挙げられている。
- ・居住時に利便性を重視していた層では、転居時の重視事項として特に通勤・通学の利便性が挙げられている。
- ・居住時に住環境を重視していた層では、転居時の重視事項として鉄道駅や生活利便施設への近さが挙げられている。
- ・居住時に暮らしやすさを評価していた層では、転居時の重視事項として公共福祉、生活利便施設が挙げられている。

なお、問 16-2 転居理由の問いで記されたその他意見に、以下の記述等があった。

- ・「郷里に家がある」、「生まれた土地に帰る」など
- ・住民税や国保料の安い自治体へ転居を希望する
- ・子供の医療費がかからない自治体を希望する
- ・買い物、医療など生活利便性の良い地域を希望する（市役所支所が本市にないことを挙げる記述も）
- ・自治体活動がシンプルな地域

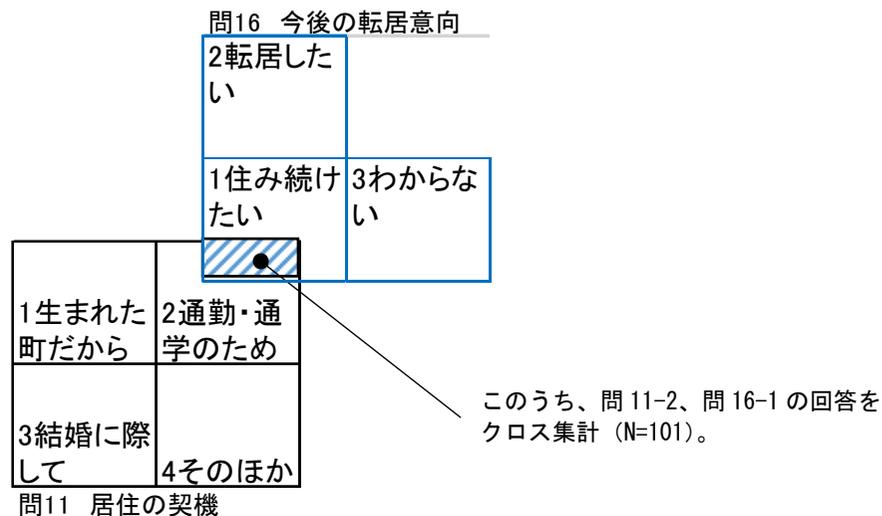
■集計②

問 11 居住の契機・・・選択肢 2「通勤・通学のため」

問 16 住み続け意向・・・選択肢 1「今の場所に住み続けたい」

上記のうち、問 11-2「居住した際の評価事項」と、問 16-2「転居地を決める際の重視事項」の間でクロス集計を行った。

問 11-2、問 16-1 とともに単数回答の設問である。



■結果

問 11-2 居住の際の評価事項

| | 通勤・通学に便利 | 価格が安価 | 手頃な面積 | 利便性 | 住環境 | 暮らしやすい | その他 |
|------------------------|----------|-------|-------|-----|-----|--------|-----|
| 今の場所に愛着・誇りを感じるから | 8% | 36% | 20% | 11% | 10% | 0% | 17% |
| 通勤・通学に便利だから | 22% | 0% | 20% | 17% | 10% | 0% | 0% |
| 教育環境(学校等)が充実しているから | 0% | 9% | 0% | 0% | 5% | 0% | 0% |
| 自然環境がよいから | 3% | 9% | 0% | 0% | 5% | 0% | 0% |
| 生活利便施設(スーパー等)が充実しているから | 22% | 9% | 20% | 11% | 25% | 17% | 33% |
| 医療・福祉環境が充実しているから | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 地域での人間関係がよいから | 8% | 9% | 0% | 11% | 5% | 17% | 17% |
| 住宅そのものがよいから | 3% | 0% | 20% | 17% | 15% | 0% | 0% |
| 家賃・物価が安いから | 0% | 9% | 0% | 0% | 5% | 0% | 33% |
| 行政サービスが充実しているから | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 住み慣れているから | 32% | 18% | 20% | 33% | 20% | 50% | 0% |
| その他 | 3% | 0% | 0% | 0% | 0% | 17% | 0% |

問 16-1 住み続けたいと思う理由

居住の際の評価事項に関わらず、「住み慣れているから」とする割合が高い。

- ・居住時に通勤・通学の利便性を評価していた層では、通勤・通学の利便性や生活利便施設の近さを引き続き評価している。
- ・居住時に住環境を重視していた層では、生活利便施設の充実を評価しており、通勤・通学の利便性への評価は比較的低い。

なお、問 16-1 住み続け理由の問いで記されたその他意見は、自宅があるからなどの住宅の存在に関するものがほとんどであった。

■考察

通勤・通学を契機に本市に居住をはじめ、**現在、転居意向を持つ層**において、転居時に重視する事項として「手頃な広さ」を挙げている。

その上で、生活利便施設への近さや公共福祉が充実しているかどうかを重要視されている。これは、家族形態の変化に伴っていることが推測される。

問 16-3 では、こうした条件の場所が市内にあるかどうかを尋ねているが、回答者の 42%は市内に条件に合う場所がないと答え、市内および市外で比較検討するとする割合は 39%となっている。市内のみで検討する割合は 3%に過ぎない。

「市内に住み続けたい」とする層の分析からは、やはり「利便性」が重視され、「住み慣れ」「愛着」などの要素が住み続け意向に繋がっていると推測される。

以上より、通勤・通学のために本市に居住を始めた層は、家族形態の変化などにより転居を考えたとき、「手頃な広さ」、「利便性」、「公共福祉」を評価しながら転居先を検討しており、比較検討範囲は本市にとどまらず、草津市、守山市など市外も含まれ、市外転居に至るケースがあることがうかがえる。

市内居住を続けたいと考えるには、愛着、住み慣れといった要素も重要であることがうかがえる。